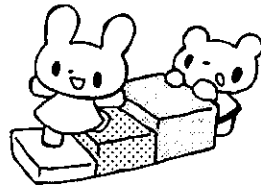


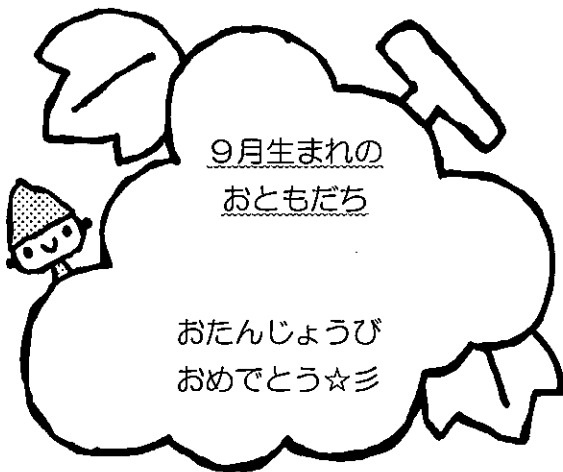
2020年9月 尚徳福祉会 末長こぐま保育園

外に出ればまだまだ汗ばむ季節ではありますが、少しずつ秋の訪れを感じる頃となりました。友だちへの興味が増し、横になっている子にトントン、頭をなでなで、微笑みかける等、子どもたちなりにコミュニケーションをとろうとする姿が見られます。また動きも活発になり、階段の上り下りがスムーズになっていたり、高さのある巧技台も難なく登れるようになっていたりと身体を巧みに動かせるようになってきました。最近ではマルチパーツや箱車などの重いものを持ち上げて運ぶ姿や、机やタイヤを押そうとする姿まで見られますよ☆これからも熱中症や安全面に留意しながら、園庭やホールで存分に体を動かして遊びたいと思います。



おしらせ

いちご組の給食では、クリアマスクの使用を始めました。かみかみ、もぐもぐ等、口の動きを見せながら具体的に伝えることで咀嚼力を養いたいと思っています。是非ご家庭でも口の動きを見せて知らせてあげてください♪



楽しい水遊び

気候や子どもの体調面を考慮し、テラスでの水遊びが難しい日もありますが、室内でも様々な形で水の感触を楽しんでいます。室内ではウォーターベッドや水風船、食紅を混ぜた色水等で遊んでいます。ウォーターベッドや水風船は初めての感触に不思議そうにしていたのですが、慣れると手の平で押して感触を味わったり、叩いてぽちゃんと音が鳴るのを楽しんだりしていました。テラスでの水遊びではタライを準備している時から窓におでこをつけ、食い入るように見ている子どもたちです。始めはタライの外から手を伸ばしていましたが、タライの中へ誘ってみるとお尻がつけられず直立！少しずつ腰を下ろすと気持ちよさそうな表情になり、最近ではバシャバシャ豪快に水遊びを楽しんでいます。楽しいあまり部屋に戻ると泣いてしまうこともあるくらいです。水遊びができるのも残りわずかですが、無理はせず思いきり楽しみたいと思います。タオル・ウィリーパンツのご用意、いつもありがとうございます。



大切な五感の刺激 No.3

《触覚》お母さんに抱っこされたときの肌と肌のふれあいや、毛布でくるまれたときの心地よさが情緒を安定させます。また、触覚が発達すると手触りで物を識別できるようになり、手の器用さにも繋がっていきます。皮膚は自分の身体と外界との境界にあるため、皮膚から感じる触覚を通して、自分の身体の輪郭を感じることができるようになります。保育園では水や絵の具、紙などの様々な素材に触れる遊びを設定し、触覚の体験を増やしています。散歩に行く時には花や葉、砂など様々なものに一緒に触れてみてください♪「触りたい」「確かめたい」というお子さんの自発性、能動的な行動に対して応えていくことが大切です。くすぐり遊びやマッサージなどのスキンシップも子どもの心が安定し、脳の発達を促します。

